



## 少子化から考える進路選択

### 参考資料①

「出生数、出生率の推移: 子ども・子育て本部 - 内閣府」



### 参考資料②

「人生100年時代」に向けて  
厚生労働省」



### 参考資料③

「Society 5.0 - 科学技術政策  
- 内閣府」



5月26日の日本経済新聞朝刊1面に「少子化、コロナで加速」という記事がありました。今年の国内出生数が過去最少を更新し、戦後初めて80万人を割り込む可能性が出てきたという衝撃的な内容でした。少子化が近年課題とされてきましたが、コロナ禍で結婚や出産を控える動きが加速化していると報じられています。総務省のデータによると、みなさんの親世代と言われる40歳代の出生数は平均約190万人前後、現在の高校生世代の出生数は平均約113万人前後ですので、いかに、少子化が進んでいるのかが理解できると思います。

実は、こうした急激な少子化への対応がすでに進んでいます。みなさんは、「Society 5.0」や「インクルーシブ社会（共生社会）の実現」や「人生100年時代」というキーワードを一度は聞いたことがあるかと思いますが、これらは少子化による人不足が社会に与えるさまざまな影響を回避する具体的な対応策の一面があります。一時期、「将来、AIに人の仕事を奪われるかもしれない」という話が話題となりましたが、日本国内の少子化による人不足の影響は、AI発展による雇用への影響よりも深刻であるという見方が一般的です。

先行きが見えず、将来に対して漠然とした不安を感じている人も多いと思いますが、上記の理由から社会のさまざまな場面で、今後みなさんの力が社会を支えるために大変貴重となることは間違いありません。だからこそ純粋に自分の興味・関心と向き合い、科目選択で自ら選んだ学びをやり遂げ自己の能力を伸ばすことは大切です。そして、その能力をさらに伸ばす場所を探す視点から進路選択を考えてみてはいかがでしょうか。さらに進路選択の幅を広げるためには、上級学校や仕事について理解を深めることや比較検討することも不可欠です。ぜひ2階ガイダンスセンターの資料や相談部の先生を活用し、進路研究を行うことをお勧めします。

## 話題のデータサイエンスを学べる大学について

ここ5年間で、データサイエンスを学べることを特徴とした四年制大学の新学部が続々と誕生しています。（図表1）データサイエンスとは、社会に溢れているデータから新たな社会的価値を引き出すことを目的とした学問です。具体的には、データサイエンスの専門教育と文系・理系にとらわれない広範な教育を行うと説明しています。しかし実際に各大学のカリキュラムを見てみると、データサイエンスの授業が中心であるのは共通していますが、数学や情報工学の授業が多い大学、情報社会学やビジネス系の授業が多い大学、STEAM（科学・技術・工学・芸術・数学などを横断的に学ぶ）的な学びが出来る大学など、授業内容が大きく異なるようです。

このような話はデータサイエンスだけではなく、教育学や学際系（国際学や環境学など多くの領域の異なる学問を学ぶことの出来る）学部などにも当てはまります。早い段階から、各大学について情報を集め理解を深めることが、進路のミスマッチを防ぐために不可欠です。

### データサイエンスなどを学べる 情報系学部・学科を新設した主な大学



平成29年度	滋賀大(滋賀)、東洋大(東京)
30年度	横浜市立大(神奈川)、広島大(広島)
31/令和元年度	兵庫県立大(兵庫)、中央大(東京)、武蔵野大(東京)
2年度	福知山公立大(京都)、長崎大(長崎)
3年度	立正大(東京)、南山大(愛知)
4年度(予定)	名城大(愛知)、岡山理科大(岡山)、近畿大(大阪)

(図表1)

2021.5.23 産経ニュース

<https://www.sankei.com/life/news/210523/lif2105230043-n1.html>